

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第106回）に係る面談

2. 日時：令和5年3月14日（火）15:00～16:20

3. 場所：原子力規制庁6階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、岩永企画調査官、正岡企画調査官、大辻室長補佐、  
安部室長補佐、石井係長、高橋係員

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 4名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所 7名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」）という。）から、次回（第106回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受け、内容について確認を行った。
  - ✓ 1号機RCW熱交換器入口ヘッダ配管で確認された滞留ガスの対応
  - ✓ 1号機RCW熱交換器内包水サンプリングについて
  - ✓ 長期的な視点でのPCV閉じ込め強化の方針
  - ✓ ALPSスラリー安定化処理設備設置における検討状況
- 原子力規制庁は上記の内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。
  - 【1号機RCW熱交換器入口ヘッダ配管で確認された滞留ガスの対応】
    - RCW配管の入口・出口ヘッダ配管において、水素爆発が発生した場合の当該配管への影響評価について、計算条件の説明を図と併せて示すこと。
  - 【1号機RCW熱交換器内包水サンプリングについて】
    - 概要に記載しているRCW内包水のサンプリング作業に係る流れがわかるように記載を充実させること。
- 東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 1号機RCW熱交換器入口ヘッダ配管で確認された滞留ガスの対応について（案）
- 1号機RCW熱交換器入口ヘッダ配管の滞留ガス対応及び熱交換器内包水サンプリングについて
- 長期的な視点でのPCV閉じ込め強化の方針について
- ALPSスラリー安定化処理設備設置における検討状況

- 『東京電力福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップ（2回目）』に関する当社の認識について